

「総務常任委員会視察報告書」

- 1、視察期間 自 平成25年10月16日（水）
 至 平成25年10月18日（金） 3日間
- 2、視察事項 1) 島根県 雲南市 10月16日（水）
 「雲南ブランド化プロジェクトについて」
 （台風のため視察を中止）
- 2) 島根県 大田市 10月17日（木）
 「世界遺産登録後のまちづくりについて」
- 3) 島根県 安来市 10月18日（金）
 「ふるさと寄附制度について」
- 3、参加者 総務常任委員会
- 副委員長 渡 邊 新一郎
- 委 員 窪 田 行 隆
- 委 員 山 田 朱 美
- 委 員 松 本 啓太郎
- 委 員 茂 木 光 雄
- 委 員 隅田川 徳 一

4、報告事項

1) 「雲南ブランド化プロジェクトについて」 島根県雲南市

雲南市への委員会視察については、台風26号の影響で、中止と決定した。尚、航空便の変更ができたため、2日目の大田市からの視察は予定通り行うことが決定され、宿泊地には予定通り到着した。

2) 「世界遺産登録後のまちづくりについて」 島根県大田市

(1) 市の概要

大田市は、島根県の東西の中央部に位置し、市域の北部は日本海に面しているが、急峻な中国山地が海岸に迫っているため山林原野が多く、平坦地が少なくなっている。中央部には2007年に世界遺産登録された石見銀山遺跡、南東部には今年、指定50周年を迎える大山隠岐国立公園に属する三瓶山がある。気候は、日本海型気候に属し、比較的温暖だが山間部と平坦地域ではかなりの温度差がある。地質的には白山火山帯に属することから、多くの温泉に恵まれている。

また、この地域は石見文化と出雲文化が混在する文化的共通性を持ち、中世から近世にかけて石見銀山の盛衰に大きな影響を受けた地域である。地域内の「石見銀山遺跡」や「熊谷家住宅」「温泉津温泉街の伝統的建造物」「^{ゆのつ}楡の木谷横穴群」等は、古くからの歴史を今に伝える史跡や文化財が点在している。このような特色ある観光資源を有しており、年間100万人以上の観光客の入り込みがある。

昭和29年1月1日に2町6村が合併して市制施行した大田市は、その後2度の合併、区域編入の後、旧温泉津町、旧仁摩町と平成17年10月1日に合併して新「大田市」となった。

人口 平成25年4月1日現在 38,065人
男17,944人、女20,121人、世帯数16,145世帯
面積 436.12km²
平成25年度当初予算 一般会計 257億1,500万円
特別会計 134億1,044万円

(2) 登録後の課題について、

2007年7月に「石見銀山遺跡」が世界遺産に登録され、その過程で特筆されるのは、官民が一体となって遺跡の保存活用について議論を重ね、持続可能な地域づくりを目指した「石見銀山協働会議」の立ち上げである。民間人・団体、島根県、関係自治体職員等からなる200名規模の会議で、石見銀山遺跡を未来に引き継いでいくために、今後の活動の方向性が話し合われ、「石見銀山行動計画」がまとめられた。この計画は守る（保存管理）、伝える（情報発信）、招く（受入）、活かす（活用）の4つの分科会でまとめられたものであ

る。この計画を受けて、まちづくりのルール、出店計画など独自に決められ保存活動が行われている。

石見銀山遺跡は年間20万人規模の観光客が訪れていたが、登録後は急激に増えると予想されていた。登録後の観光客に、いかに自然の中にある遺跡をゆっくり楽しんでもらえるか、登録前後数年間のまちづくりを考えた。そこで取り上げられた方法が「石見銀山方式パーク&ライド」である。遺跡の入口である石見銀山世界遺産センターから各エリアを繋ぐバスに乗り換える方式で、遺跡内への自家用車等の乗り入れを制限するものである。登録直後は輸送能力オーバーで不評であったが、本数やコースの見直しを経て、現在は、訪れる方たちの理解もあり、概ね好評のようである。渋滞、混雑、駐車場不足を解消し、遺跡内の自然保護にも効果を発揮している。



登録から5年が経過し、世界遺産効果の観光客数増加は一段落したように見え、住民主体のまちづくりは、確実に効果が出ている様である。

今後の課題として、歩行が困難な障害者やお年寄りへの対応や環境に配慮した電気自動車の導入や観光バスの乗り入れ等を検討しているとの事であった。

(3) 観光客の回遊について、

観光客数の面から見れば、世界遺産の効果は大きかったが、遺跡の中は広大で、思うように目的地から目的地までの移動が困難である。平成20年に交通対策の見直しを行い、歩く観光への変更を行った。歩くだけでは魅力が伝わらなかつたり、満足できなかつたりするため、音声ガイド機器の貸し出し、ガイドツアー開催、ガイドの会による遺跡ガイド等により、遺跡の魅力を伝えられるよう工夫している。一度だけではすべてを回ることはできないので、何度も訪れたい魅力発信に努めている。

石見銀山遺跡は一般的には間歩（穴、坑道）等が銀山遺跡と思われているが、本来は間歩や家並み全体が世界遺産と聞き、石見銀山遺跡を回遊するには現地のガイドの案内は必要と思われる。

(4) 視察研修を終えて

世界遺産登録の先進地である石見銀山遺跡の取り組みを研修する事により、藤岡市も世界遺産登録決定後に向けての参考としたいと思い、大田市を視察地と決定した。しかしながら高山社跡は富岡製糸場と絹産業遺産群の構成資産の一つであり、また規模的にも小さく単独での世界遺産登録ではないのが問題で

あり観光客をいかに長く藤岡市の他の観光地に見学してもらうかが今後の検討課題と思われる。

石見銀山を観光するには、石見銀山世界遺産センターを見学すると、銀の発掘から精製、外国との貿易までの歴史がおおよそ理解出来るのでこの様な施設は必要だと思われた。

高山社跡においても、蚕から繭になるまでがどの様に飼育され、「清温育」の確立までの様子やどの様な器具が使われたか小さな子供から養蚕に携わったことのない人でも分かる様な展示室等が必要だと思われる。



3 「ふるさと寄附制度について」

島根県安来市

(1) 市の概要

安来市は島根県の東端に位置し、鳥取県との県境に位置している。

かつては神聖な地であったようで、この土地名を冠している神社名が全国に散見される例が他所よりも甚だ多い特徴をもっている。

明治22年4月1日市町村制施行により、能義郡阿木町が発足。昭和29年4月1日島根県下で6番目に市制を施行して安来市となる。平成16年10月1日、広瀬町・伯太町との1市2町で合併し、新「安来市」となった。

弥生、古墳時代にかけて出雲に強力な王権が発生するが、その中心地（東部出雲王朝）だったという説がある。全国最大級の方墳である造山古墳群や出雲文化圏特有の四隅突出型丘墓など多くの古墳が発掘されており、弥生から古墳時代にかけて約500年の間、連綿と栄えた地域である。

山陰では鉄器も北九州に準ずる量が発掘されており、大和地方へ供給され大和朝廷建国の原動力となったという説がある。現在は世界的なシェアをもつ高級特殊鋼を中心とした産業に加え、海外からも高い評価を受けている足立美術館などの観光地、どじょうすくいでも有名な民謡安来節などの文化で知られている。

人口 平成25年4月1日現在 41,493人
世帯数 14,051世帯
面積 420.97K㎡
平成25年度予算 一般会計 244億2000万円
特別会計 137億5091万円

(2) 制度の概要について

ふるさと寄附は任意の自治体に寄附をした場合に個人住民税、所得税が一定額（2,000円）まで控除される制度は藤岡市と同じです。藤岡市との違いは、安来市では平成20年度から「ふるさと寄附」制度を設け、1万円以上の「ふるさと寄附」をいただいた方には、市の費用負担により、5千円相当の市内の特産品をお贈りしている点である。この寄附特典は、いっぴんコース（5千円相当1品）、えらべるコース（2品で5千円相当）のどちらかのコースを選ぶ事ができ、安来市に来ないと手に入らない品のため非常に人気があり、寄附件数が飛躍的に伸びている要因と思われる。また品物とともに市長直筆署名のお礼状を送り、感謝の気持ちも伝えている。しかし95%が1万円の寄附が多い中、5千円分のお返しには、議論があったようだが、市にとっては地元生産物の宣伝や市のPRになり、市内生産者にとっては必ず売れるメリットがある、ということで市長が決断したが、寄附者の30%はリピーターであり、多くの寄附を集めている。

(3) 現在の状況について

平成22年度より「ゲゲゲの女房」放映での知名度向上の効果により、寄附件数は急上昇しており、平成24年度分を今年度10月で達成しており、平成22年度と比較すると2倍になっている。特に確定申告の12月が毎年多いとのことである。

地域的には、関東が50%（東京、神奈川、千葉、埼玉等で群馬は無）、関西20%（大阪、兵庫、愛知等）、その他30%とのこと、地元よりも大都市圏の方が多い。これはインターネットの普及で、ホームページを見て寄附先を決める人が多く、特典にひかれている面もあると思うとのことであった。また30%がリピーターとの事で、特典に満足している面もあるとのことであった。

寄附払い込み方法として、「郵便払込」（全国の郵便局での払込）」に加えて「ネット決済（Yahoo! 公金支払）」を利用出来る事も、大きな伸びの要因ではないかと思われる。



(4) 今後の課題について

30%のリピーターをいかに増やしていくか、また現状を維持しつつ、関東、関西以外の地域に寄附特典方法をどの様に発信していくか課題と思われる。

(5) 藤岡市としての取り組みについて

いかに寄附件数を増やすかには、藤岡市独自の寄附特典制度的な方法を考えるべきと思われる。また県のマスコットキャラクター「ぐんまちゃん」等を利用して藤岡市のアピール、また高山社跡の世界遺産登録事業への協力等もアピールし、市内の大きな企業にも積極的にお願いしていくべきだと思われる。

「富岡製糸場と絹産業遺産群」という事で、富岡市に頼り過ぎている感がある。新聞紙上やイベントに富岡製糸場については毎日の様に報道され、藤岡市としての盛り上がりが少ないと感じる。「高山社を考える会」等の団体と藤岡市が密に連絡を取り進めていくべきと思われる。



以上の通り報告いたします。

平成25年12月11日

副委員長 渡 邊 新一郎

委 員 窪 田 行 隆

委 員 山 田 朱 美

委 員 松 本 啓太郎

委 員 茂 木 光 雄

委 員 隅田川 徳 一